

**夏休み、体験&学習型イベントを開催**  
**日本では見ることができない1~2歳のウミガメにタッチング**  
**今年は初めてサンゴの実物を展示し、自由研究の相談も可能に**  
**串本海中公園と協力し、子供たちが海や環境のことを考えるきっかけに**

図書館機能を中心とする複合施設「海南nobinos」（和歌山県海南市）は、夏休みの子供や家族に向けた体験&学習型イベントとして、昨年好評だった「ウミガメタッチング」を8月19日、ノビノスホールにて開催します。今年も串本海中公園の協力で、本来日本では見ることができない1~2歳のウミガメの子供がやってきます。午前と午後の部それぞれ100人が参加し、ウミガメと海の話をお話を聞いた後、一人ずつウミガメを手を持つ体験をしてもらいます。今年は新たな取り組みとして、より海の話について学びを深められるよう、別室でサンゴの模型・標本やパネルを展示し、同公園の森館長が自由研究の相談や質問にも応じます。当イベントが、子供たちが海や環境について考えるきっかけになることを目指します。

**■ 家族でウミガメタッチングと記念撮影を楽しむ**

ウミガメの産卵地もある 和歌山県の子供たちに、「ウミガメに触れて感じる和歌山の海と環境」をテーマに企画しました。ウミガメは本来、産卵された海岸でふ化した後、太平洋に出て数十年の旅をします。日本に帰ってくるのは大人になってからなので、1~2歳のウミガメは、本当は日本で見ることはできません。今回は串本海中公園が育てた子供のウミガメがやってくる貴重な機会です。はじめに、同公園の吉田副館長による分かりやすいウミガメの講義を実施します。絶滅が危惧されているウミガメ保全の大切さを感じてもらい、みんなでできることを探してほしいとの願いを込めました。その後一人ずつウミガメを手を持って、その大きさや重さ、手足の形や動きを実際に体験しながら、家族でウミガメとのふれあいを楽しんでもらいます。会場にはノビノスの所蔵する自由研究に役立つ海や海洋生物に関する絵本や本なども展示します。



**■ 今年は海の生態系を支える「サンゴ」について学ぶ別室もオープン**

昨年は午前・午後の各回150人が参加し、好評の声が多く届きました。しかし「ウミガメをタッチする時間が短かった」という声もあり、今年は応募人数を100人に減らしたところ、1日で定員に達しました。また、今年はより海の話への学びを深めてほしいと考え、別室の多目的室2で、串本海中公園所蔵のサンゴのパネルや、サンゴの模型・標本、図書館からは関連図書を展示します。美しいだけでなく、様々な生き物たちの生態系を支えているサンゴは、海の酸性化、海水温上昇、汚染の影響によってウミガメ同様次々と絶滅危惧種に指定されています。開室中、サンゴの研究者でもある同公園の森館長が自由研究の相談や質問にも応じます。





口10万人規模の自治体の公共図書館と比較して関西一となります（日本図書館協会「日本の図書館 統計と名簿2022」より）。

本件に関するメディアからの問い合わせ先

海南nobinos 指定管理者TRC海南（担当：西岡・森下）

〒642-0002 和歌山県海南市日方1525-6

TEL：073-483-8739 FAX：073-483-8738

E-mail：lib.trc.kainan@mail.trc.co.jp

HP：https://kainan-nobinos.jp/